

科目名	看護管理 (国際看護含む)	必修	授業形態			単位数	開講時期
			選択	講義			
区分	専門分野				1	3年 後期	
担当者	山台和子	資格	元看護教員	実務経験	(有)・無	時間 22 / 30時間	
担当者	相坂秀子	資格	看護管理 認定看護師	実務経験	(有)・無	時間 4 / 30時間	
担当者	川本光善	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間 1 / 30時間	
担当者	和田かおり	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間 1 / 30時間	
担当者	藤井恵子	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間 1 / 30時間	
担当者	田中貴大	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間 1 / 30時間	

#### 授業の目的・ねらい

看護の役割を推進するためのシステムと、専門職としての看護の社会的責任および関わりについて学ぶ。

また、国際看護として、その理念や国際協力の組織や仕組みについて学ぶ。

特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有する認定看護師が、保健医療及び福祉の現場でどのような役割を担い活動を行っているか学ぶ。

#### 学生の到達目標

1. 管理の意義と看護管理過程について説明できる。
2. 病院や看護部門における看護管理について説明できる。
3. リーダーシップについて説明できる。
4. 看護管理の今日的課題について説明できる。
5. 看護制度・看護行政と看護活動について説明できる。
6. 看護の国際協力における組織やしぐみについて説明できる。
7. 看護の活動領域について理解し、説明できる。

#### 授業概要 (授業計画)

##### <山台和子>

1. 管理の概念、病院と看護部門の基本的成り立ち
2. 看護部門の基本的役割
3. 各看護単位での看護管理
4. スタッフナースに求められる管理的役割
5. 看護管理の今日的課題
6. 看護制度・看護行政と看護活動、看護職の養成と看護制度
7. 国際看護の理念
8. 看護の国際協力の組織、しぐみ
9. 異文化の理解
10. 国際看護活動の展開
11. 筆記試験・まとめ

##### <相坂秀子>

1. 看護をめぐる制度と政策
2. 看護制度、看護政策  
看護サービスと経済のしぐみ  
看護の人員配置基準と看護サービスの評価

<田中貴大>

1. 慢性呼吸器疾患看護認定看護師の役割と活動内容

<藤井恵子>

2. 感染管理認定看護師の役割と活動内容

<川本光善>

3. 救急看護認定看護師の役割と活動内容

<和田かおり>

4. 緩和ケア認定看護師の役割と活動内容

#### 教科書

系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院  
新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全 メヂカルフレンド社  
国民衛生の動向

#### 参考書

系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院

#### 成績評価方法

終講試験、レポート、演習・授業態度等により評価する。

科目名	災害看護	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	3年 後期
区分	専門分野						
担当者	藤原春菜	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、社会における看護の役割を果たすために必要な災害看護の知識と災害各期の看護活動を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害及び災害看護の定義と災害に関する基礎的な知識について理解できる。</li> <li>2. 災害に関連する制度と災害発生時の支援体制について理解できる。</li> <li>3. 災害時の医療・看護活動の場に応じた看護活動について理解できる。</li> <li>4. 災害サイクル各期に応じた要配慮者への支援と看護について理解できる。</li> <li>5. 被災者および支援者のストレスとその対応（こころのケア）について理解できる。</li> <li>6. 災害発生時に必要な、救出・トリアージ・搬送・応急処置の基本的な技術を体験的に修得できる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害看護の歴史 災害・災害看護の概念、定義 災害サイクル 災害の種類と被害の特徴</li> <li>2. 災害に関する法、制度 法制度、支援体制・システム 減災・防災マネジメント</li> <li>3. 災害各期における看護活動① 病院、医療救護所、避難所における看護活動 応急処置・保健衛生管理・感染対策、二次健康障害の予防</li> <li>4. 災害各期における看護活動② 仮設住宅、復興住宅における看護活動 保健衛生管理・感染対策、二次健康障害の予防</li> <li>5. 災害各期における看護活動③ 要配慮者への支援と看護</li> <li>6. 被災者および支援者のストレスとその対応・こころのケア</li> <li>7. 災害発生時に必要な技術：救出・トリアージ・搬送・応急処置</li> <li>8. 筆記試験・まとめ</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>小原真理子他編 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 南山堂  山崎達枝 災害現場でのトリアージと応急処置 日本看護協会出版  三澤寿美他編 看護学テキスト 統合と実践 災害看護 学研メディカル秀潤社  酒井明子他編 災害看護 看護の専門知識を統合して実践につなげる 南江堂  小井戸雄一他編 看護の統合と実践② 災害看護学 メヂカルフレンド社  その他 授業で紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験80% レポート10% 演習への参加度10%とし、総合的に評価する。</p>							

科目名	医療安全	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	3年 後期
区分	専門分野						
担当者	越智恵美子	資格	看護教員	実務経験	(有)・無	時間	17 / 30時間
担当者	三浦柳子	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	13 / 30時間

#### 授業の目的・ねらい

人間の尊重と生命の安全を守る看護師として、必要とされる基本的知識、技術、態度を養う。  
ここでは、日常の看護で発生しやすい医療事故について認識し、必要な安全対策についての基本的な知識について学習する。特に判断力と実践力が高まるように学習を進める。

#### 学生の到達目標

1. 安全な医療を提供するために必要な知識と技術、考え方を理解できる。
2. 医療事故の現状を理解し、必要な対応（自己防止・発生時の対応）を考えることができる。
3. 医療事故に伴う看護職の法的責任について理解する。
4. 看護者の倫理的態度について考え、よりよい行動を考えることができる。

#### 授業概要（授業計画）

##### <越智恵美子>

1. ガイダンス  
医療におけるリスクマネジメント
2. リスクマネジメントの考え方  
医療安全における看護師の役割
3. ヒューマンエラーとは、エラーの種類  
ヒューマンエラーと違反
4. 事故防止のための知識と技術（起こりやすい事故への対応）
5. K Y T（危険予知トレーニング）の演習
6. 組織としての医療安全対策  
看護場面における倫理的行動
7. 医療安全管理の組織体制
8. 医療事故に伴う看護職の法的責任と看護職賠償責任保険制度  
インシデントレポートの書き方
9. 筆記試験・まとめ

##### <三浦柳子>

1. 看護師が関与した医療事故やヒヤリハット  
インシデントの種類による医療安全対策  
患者誤認
2. 基本的日常生活援助に関連するエラー  
(1) 転倒・転落
3. (2) 入浴・清拭・足浴、温罨法  
(3) 誤嚥
4. (1) 与薬  
(2) インスリン製剤投与  
(3) 輸液ポンプとシリンジポンプ
5. (4) がん化学療法  
(5) 輸血  
(6) 経管栄養  
(7) 人工呼吸器の関連  
(8) ライン・チューブ・カテーテル関連
6. (9) グリセリン浣腸
7. 筆記試験・まとめ

教科書

新体系看護学全書 看護の統合と統合と実践（1）看護実践マネジメント  
医療安全 メヂカルフレンド社

参考書

小林美里編 看護学テキスト Basic & Practice 統合と実践 医療安全 G a k k e n  
石川雅彦・斎藤奈緒美  
リスクアセスメント力が身につく実践的医療安全トレーニング 医学書院

成績評価方法

終講試験、レポート、演習・授業態度等により評価する。

科目名	統合技術演習	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習			1	3年 後期
区分	専門分野						
担当者	越智恵美子	資格	看護教員	実務経験	(有)・無	時間	10 / 30時間
担当者	木谷有紀	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	5 / 30時間
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>臨床に近い状況での演習を通して、知識と技術を統合して体験することで、卒業後に安全で確実な技術が実践できることを目指す。</p> <p>特に、卒業後の臨床では、多重課題が課せられるため、このような状況において、その状況を瞬時に判断し、看護の優先順位を冷静に考え、適切な行動がとれるように学習する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療の補助技術の基本的技術を取得し、モデルを使用して実施できる。</li> <li>2. 演習を通して、複合的な条件の事例に必要な看護を実践できる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>&lt;木谷有紀&gt;</p> <p>検査に関する看護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 静脈血採血の実施方法、根拠、留意点</li> <li>2. デモンストレーション</li> <li>3. 技術演習・振り返り</li> </ol> <p>&lt;武田有紀&gt;</p> <p>与薬に関する看護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 点滴静脈内注射の実施方法、根拠、留意点</li> <li>3. 輸液ポンプの基本的操作 - 外部講師による説明(講義・演習)</li> <li>4. デモンストレーション</li> <li>5. 技術演習・振り返り</li> </ol> <p>呼吸・循環を整える看護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 口腔内・鼻腔内吸引、期間内吸引の実施方法、根拠、留意点</li> <li>7. デモンストレーション</li> <li>8. 技術演習・振り返り</li> </ol> <p>&lt;越智恵美子&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 多重課題の危険性、多重課題の発生時の対応の原則 - DVD視聴</li> <li>3. 演習事例課題説明・グループワーク</li> <li>4. } 複数患者の多重課題演習</li> <li>5. } リフレクション</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>各専門領域で学習した教科書、技術、プリント  新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント 医療安全</p>							
<p>参考書</p> <p>随時紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>演習項目について、別紙評価表に基づき評価する。  課題レポート提出状況、授業態度も加味する。</p>							